



Subaru

男声合唱団 ニュース№684

'19. 3. 2

門さんを迎える、コンサート後初のレッスン

3月1日

□3月1日（金）、コンサート後初の定例レッスンは、佃さんの体操、吉岡さんの滑舌レッスン、千秋さんのヴォイストレーニングに始まり、ピアノに門万沙子さんを迎えて、12thコンサート後初のレッスンを行いました。

□本並先生の指揮で、「死んだ男の残したものは」、「雨」、「I've Got Sixpence」と「母なるウォルガを下りて」の4曲をレッスンしました。参加は全35名でした。

□門万沙子さんは、皆さんご存知の通り、関西の著名合唱団、各種記念合唱団、うたごえ全国ベースの特別合唱団、合唱講習会等々のピアニストとして有名で、超お忙しい時間を割いて、昴のピアニストとして演奏を助けて頂くことになりました。よろしくお願ひします。なお、森二三さんは今まで通り昴のピアニストを担っていただきます。



□長屋正義さんが、手術リハビリが終わり、コンサート後初の今回レッスンから、元気に復帰されました。

□長屋敏郎さんが入院加療中です。コンサート直前に肺炎のため入院されました。岡邑さんが見舞いに行き、状況の報告がありました。

□野村雅昭さんが退団されました。演劇、囲碁などの多忙な活動との両立が難しくなり、コンサートを勤め終わったのを期に、従来の活動に専心されます。皆さんに丁寧な挨拶状が届いています。

No.684(1/2)

(寄稿)「アンケート：千秋昌弘&昴コンサートについて（千秋昌弘）」

2017年11月金沢のうたごえ祭典宿泊先で、その夏の団総会で決めた、「12回コンサートで、千秋が半分持つ」方向で、事務局長の立川さんと風呂の中の会話で、腹を決めた。

何を歌うか、曲目を当初、「わが母のうた」「桑畠」「サトウキビ畠」「花には太陽」などあげて会議に出したが、「簡単な歌ばかりや、今でも歌えそうなものばかりや」とのご意見を頂き、「みみづく」「瓜はめば」「花の歌」などを曲目にあげ練習もしてきた。何を訴えるのかを考えたとき、「みみづく」ではしんどく感じ、思い切って創作曲に変えた。これも内容が後ろ向きとのご意見をいただき、推敲を重ね、今回演奏した「私は歌う、愛を信じて」になった。「瓜はめば」はヒロシマの祈り「オラトリオ鳥のうた一序一」に変えた。都度、ピアノ伴奏に苦労をかけ、心配もさせた森二三先生には感謝以外の何もない。仕上がりに不安を残す中、「誰が音楽的責任を持つのか！」と尾上先生に叱責され、「ピアニストも呼んで来い」と本番前日21日にJR大住のピアノのある知人宅で歌を深める練習をした。

曲の解釈、演奏上テヌートなどの指摘もあり、本番当日のリサイタルは、あまり声を出さずおこうと思っていたが、前日練習で指摘された変更部分の合わせが必要となり、真剣にリハも歌った。休憩時間、千秋控室にあるピアノで、再度森先生のピアノ合わせをした。もともと、昴の全曲と、千秋の第二部全曲に責任を持つ演奏が求められる中、体力、喉の調子など少々の不安はあったが、今の自分をさらけ出し、観客に勇気を与えられる演奏をと、全力で、心をこめて歌うことを肝に銘じ本番に臨んだ。

あたたかいコンサート後に掛けられる言葉の数々に、感謝あるのみであった。

100点満点の仕上がりではなく、心残りがあるのは事実だが、チケット販売の組織面では、先頭を切る覚悟で臨み、招待5枚を含め210枚ほどを売った。

820席の約4分の一を販売し、満席状態を作りえたことに、団長としての一定の責任を果たせたかと思っている。ただ素人で無名のソリストとのジョイントに昴の皆さんには苦労を掛けたとも思い、感謝をしている。

歌い終わって、自分が後期高齢者なんだということを、しみじみ思うが、温かい励ましの言葉に、もう少し歌い続けようかとも思っている。コンサート後の28日に森先生から「方正はいくさを物語る」(開拓団逃避行の歌)の混声合唱曲を頂き、すぐ後ろ向きになろうとする自分に大きな励ましを与えてくれた。感謝。みなさんもう少し歌い続けることを、一緒に付き合ってください。頑張りましょう。 (2019.3. 2)

(注：)「アンケートの内容には沿っていないかもしれません、思いつくまま書いてみました。」と千秋さんからコンサートを取り組んで、そして歌い終えての感想文が届きました。皆さんに届けます。(ニュース編集子)